

住まいの飾り職人“アトムリビントック株式会社”の広報誌

ATOM NEWS



162

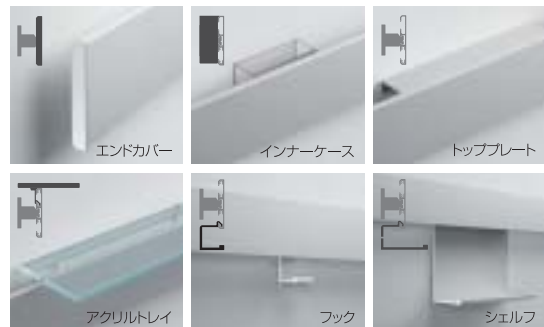
【アトムニュース】
2008 DECEMBER 冬号

コレクションをおしゃれにディスプレイ。
Favorite collection in my room



ディスプレイ感覚の新収納スタイル。 CASARL WALLSTYLE

カサル・ウォールスタイルは、収納とディスプレイをカップリングさせた新感覚の壁面収納です。アルミ製メインレールにコーディネート自在な、フック・トレイ・ケース・シェルフなどの専用パーツを組み合わせて、さまざまな用途に対応できます。ユーザーのライフスタイルに合わせて住空間をシンプルに美しく演出します。



Favorite bags in my room



Favorite goods in living room



- 03 Friend Circle
伝統文化コーディネーター 高月美樹さん
- 06 寺めぐり・冬
寺町・谷中の七福神めぐり
- 07 東京再発見
東京ジャーミイ・トルコ文化センター
- 10 TOPICS
- 11 ATOM's Eye
2008秋の内覧会
- 13 金物FAQ

14 ATOM×EARTH VISION

15 CSタワー通信
5階／住空間イメージフロア

16 オフタイム

17 新橋タウン情報
「Tony's Bar」

18 アトムのShimbashiナビ

2008 December 冬号

162

COVER PHOTO

花卉デザインアーティスト・ちばまきこ氏による作品。今回のテーマは「都心の自然」。作品とインテリアが絶妙に調和したことで、CSタワー地下1階はそれまでの無機質な空間から、野山の息吹を感じられるオアシスへと変化を遂げた。実際に作品をご覧になりたい方は、お気軽にCSタワーへお越しください。他にもたくさんの作品をご覧いただけます。



ブックコンシェルジュ
Book concierge

本のスペシャリストがテーマに沿った
オススメの洋書をピックアップ!

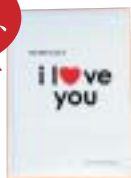


アトムCSタワー1階の
書籍コーナーにて撮影

安岡 洋一さん
1967年大阪生まれ。洋書店「ハックネット」代表。事業内容は洋書籍販売のほか輸出入代行業務や商品開発など多岐にわたる。CSタワー1階の書籍コーナーには安岡さんの目利きによって選ばれた洋書が並んでいる。



読者
プレゼント



Thema#05

パターンの伝統と今、そして可能性を視る



Simply Pattern

ウォールホールのシルクスクリーン・パターンやエミリオ・ブッチのサイケデリックなファブリックなど、身の回りにあるさまざまなパターンの中でも特にユニークなものを集めた一冊。日本を含め、世界中のパターンをファッション、プロダクト、環境の3つの視点から紹介している。日本人グラフィックデザイナーのTAKORA、パリのデザインスタジオ5.5Designersら総勢70組のクリエイターを収録。パターンスタイルの“今”が一望できる。



Florence Broadhurst Her Secret&Extraordinary Lives

フローレンス・ブロードハーストの壁紙デザインは、独創的なパターンやカラフルな配色で、1920年代から多くの人々を魅了してきた。動物や植物、ストライプやサークルなどをモチーフにした斬新でエキゾチックなパターンは、20年のブランクを経て復刻され、今も世界中で販売されている。本書は未発表作品も含め100点以上を年代ごとに紹介している。彼女のデザイン以外の活動や謎の死など、数奇な運命についても語られている貴重な一冊だ。



Couture Interiors

ファッションがインテリアにどのように転用されているかをケーススタディ的にまとめた一冊。ヴィヴィアン・ラグ、ヴェルサーチの食器やフェンディのベッドやソファ、ミッソーニのクッションなど、ファッション界のスーパーブランドが家具や食器、壁紙など、インテリアやライフスタイルの分野にも広がっているというトレンドがうかがえる。ファッションとインテリアのコラボレーションという新しい可能性を模索するときに参考となりそうだ。

巻末ハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から
抽選で10名様にこちらの洋書をプレゼントいたします。

「The little book of I love you／Sacha Goldberger」

フランス在住の広告マンが1枚ずつ彼女に送った「I love you」のビジュアルメッセージをまとめた一冊(英語版)。「I love you」をキーワードにタイポフェイスやロゴ、写真、パソコン画面など、さまざまなビジュアル表現が集まっている。まさに「I love you」がたくさん詰まった本。大切な方への贈り物としても喜ばれそうです。

■ 締切 2009年1月31日(土)

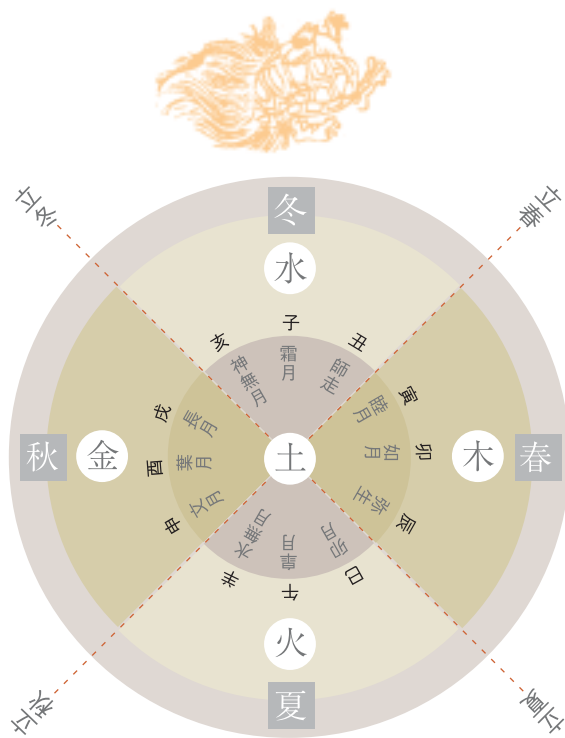
※ハガキは当日消印有効、FAXとホームページは24:00までの送信分有効。

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって
かえさせていただきます。

今回ご紹介の洋書はCSタワー1階の書籍コーナーにて展示・販売しています。どうぞお手にとってご覧ください。

伝統文化コーディネーター

高月美樹さん



旧暦では、太陽の周期から割り出された立春を起点とし、立春にもっとも近い新月の日を元旦としている。ちなみに、2009年度は、1月26日が旧暦の元旦になる。

「旧暦」とは、月と太陽の周期を組み合わせた「太陰太陽暦」のこと。満ち欠けを繰り返す月でわかるのは日付。ゆっくりと巡る太陽でわかるのは季節。古の人々にとって月は天然のカレンダーであり、日中の太陽の位置を見れば、大体の時刻を知ることができた。非常にシンプルで、自然の大らかさ、かつロマンを感じずにはいられない。現在使われている新暦

旧暦は、新暦とは違って、季節感のズレがないんです。

今回のゲストは、伝統文化コーディネーターの高月美樹さん。
今、何故、旧暦がひそかなブームになっているのか？
旧暦が今に生きている例や、旧暦を取り入れ、
日常をより豊かにするための術について、たづねと語っていただきました。



女性誌の編集者時代、書道、茶道など、伝統文化の第一人者を取材するなかで、そこに共通して脈脈と流れている精神があることに気づく。そういった文化を繋げて、日々人が楽しめるものを提供したいという思いから旧暦にたどり着く。2003年より和文文化ダイアリー「旧暦日々是好日」を編集・発行。和菓子などとのコラボレーションや、さまざまな和文化に関するワークショップも行っている。
<http://www.lunaworks.jp/>

が、まだ百数十年しか経っていないのに対して、太陰太陽暦は、古代中国の殷の時代にすでに完成されており、日本では千年以上にわたって人々の暮らしに密着してきた。月は自然の照明で、祭りなどにも深く関わってきた。一方、太陽の運行から計算された二十四節気は、種まきや収穫など農耕上欠かせないものだった。
「ところが、明治5年の改暦以降、“季節”(歳時記)の世界にズレが生じてしまったんですね。今がいつなのかわかりにくくなってしまったひとつの要因もここ

今に残る古の言葉

お八つと正午／旧暦を使っていた頃の時刻を表す八つどき(午後2時前後)や、お昼の午の刻の名残り。かつては昇る太陽と沈む太陽で一日を昼と夜の陰陽に分け、それぞれ六等分して、太陽の位置で大体の時間を知ることができた。

三日月と晦日／三日月とは三日目の月。晦日は本来30日目は月が見えなくなるため「みそかの月」はありえないことのたとえだった。晦を「つごもり」と読むのは、月籠りの略。

懐／現在の衣類に懐(ふところ)はなく、そこにお財布を入れることがないにもかかわらず、今でも「懐があたたかい、さみしい」などという言葉が使われている。「襟を正す」「袂を分かつ」など、着物を着ていた時代の言葉は今も多く残っている。「フル、フラレル」も、着物の袖を振ることからきた言葉。

一寸先は闇／一寸は人差し指の第2関節とほぼ同じで約3cm。一尺は、親指と人差し指を広げたサイズ、咫(あた)の2倍で約30cm。かつての人たちは、定規などを使わずに“手尺”で寸法を測ることができた。

旧暦は、現代人が失いつつある
本来の季節感、そして、
五感を取り戻すための
もうひとつの時間軸なんです。

にあるのかもしれませんが」

”季寄せ“とは、平安の和歌に詠まれ、長きにわたって積み上げられてきた季節のさまざまな言葉。

「例えば”五月晴れ“というと、爽やかな晴天をイメージする人が多いのですが、本来は梅雨の最中の減多にない晴れ間を指します。水無月は真夏日が続く猛暑の頃です。現在行われているさまざまな行事や収穫祭も、新暦の日付になってはいますが、旧暦に近い一ヶ月遅れで開催されているケースが案外多いですね。雛祭りは3月3日ですが、旧暦では必ず三日月の日でした。三日月の下で、ほんぼりに灯りをともして祝ったんですね。典型的なのは7月7日の七夕です。7日の日は大体は半月。ちょうど梅雨が明けて晴天が続く頃で、月は半月ですから、天の川がよく見えたのでしょう。それを新暦の日付で行うと、梅雨の最中で満月だったりして(笑)。行事は続いているけれども、どうしても季節感のズレが生じてしまうんですね」

日本古来の暦は、自分をリセットするためのツールです。

”季寄せ“は、四季のある国・日本の文化に大きく影響してきた。古来から常

に自然と共存してきた日本人の暮らし、季節の行事や言葉……。季節感を失ってしまった今だからこそ旧暦が見直され、和文文化ダイアリー”旧暦日々是好日“が話題を呼んでいるのだろう。

「2000年くらいを境に、すごく皆さんの意識が変わってきたと思います。バブル崩壊後、自分と自然との距離感や、環境に対する意識が急速に高まってきて、自然暦ともいえる旧暦に興味をもつ方が年々増えてきているのを感じます。皆さん、あわただしい毎日の中で、季節を感じる行事や節目がなくなり、違和感を感じている。自然とのつながりを取り戻したいと、心のどこかで求めているのですね。そのズレを自分の五感でキャッチできるような敏感な方が”旧暦日々是好日“を利用してくれているのはとても嬉しいことです。仕事のスケジュールだけでなく、この和文文化ダイアリーには、心身のバイオリズムとか、ひらめき、偶然にあったことなどをちょっとメモしておく、向かうべき方向性が見えてきたり、自然に用意された流れに気づくことがあるんですよ。自分をリセットすることにも繋がると思いますね」



「旧暦日々是好日」は、季節ごとのモチーフやコラムが満載の和文化ダイアリー。使い込むほどに旧暦が自然のリズムにかなっていることが実感できるはず。2009年度版は11月中旬から発売中。



「旧暦 和菓子ごよみ」は旧暦とともに、月ごとの年中行事に関わる「とらや」の菓子や、季節の花をモチーフにした菓子を掲載。「とらや東京ミッドタウン店」にて販売中。



2009年版「旧暦日々是好日」ダイアリーには、鍛冶や金物職人のふいご祭り(別名、たたら祭りともいう)についてのコラムも掲載されている。

五感を研ぎ澄ますことで 季節の移ろいが実感できるんです。

立秋を詠んだ古今和歌集のひとつに「秋来ぬと目にはさやかに見えぬども風の音にぞ驚かれぬる」という歌がある。まだこんなに暑い時期に立秋？と違和感を感じる人も多いだろう。しかし旧暦では、立秋は秋の誕生であると同時に夏のピークでもあるのだ。立夏は春のピーク、立冬は秋のピーク、立春は冬のピークであると高月さんは語る。

「昔の人はすごく五感が発達していて、ものの気配や兆しを正確にキャッチしていたんですね。今は、その感覚が鈍ってしまっている傾向にあり、木の葉が散り始めて、やっと秋だと思っている方が多いのですが、二十四節気の立秋は8月8日頃です。もうとつくに秋に入っているんですよ。日中は暑いけれど、朝、ふつと涼しさを感じるがありますね。完全に秋になったのではなく、秋の気配が漂い始めた時、それが立秋なんです。日本文化を象徴する『花鳥風月』という言葉がありますが、それはごく身近でささやかな日常の中にあるもの。例えば旬の野菜や風の匂い、動植物の小さな命などにちよつと目を向け、耳



取材時の「重陽の月」にあわせ、高月さんは、菊と水の流れをモチーフにした美しい着物姿でいらっしゃった。帯に「菊の滴を飲んで七百年間、慈童の姿のまま生き続けている不老長寿のため話」を描いた能演目『菊慈童』の絵柄。

を澄ませば、誰でも季節の移ろいそのものを感じられるのではないかと思います。と同時に昔の人は『いい塩梅』『いい寸法』『間尺にあう』など、ちよつどよい加減やタイミングを重んじてきました。他人の定規ではなく、自らの身体的、経験的な感覚を使って日々を営むことが豊かさを生むのではないのでしょうか」

旧暦とは決して難しいものではなく、現代人のずれてしまった季節感を取り戻すために再活用できる。そして自然との共生の大切さについて教えてくれるものだ、と高月さんは語ってくれた。古の人がそうであつたように、たまには夜空を見上げ、本来の季節を五感で感じてみてはいかがだろうか。

寺めぐり 冬

寺町・谷中で、日本一遅い紅葉と 七福神めぐりを楽しむ



吉田さらさ
テラタビスト
(寺旅研究家)として
文筆や写真撮影、ツアー
企画などを行う。
また、インターネットサイト
「オールアバウト」でも
神社・寺めぐりに関する
情報を日々発信している。

今号から始まった「寺めぐり」では、
京都や奈良に負けない東京の寺町を紹介していきます。
今回ご紹介するのは、寺町・谷中。
この風情ある町は、
1月上旬、七福神めぐりの人で賑わいます。

東京の寺町が好きで、ぼつかり時間があ
いた午後などに、よく散歩をする。とりわ
け谷中が好きだ。戦災の被害が比較的少
なかったため、古きよき下町の佇まいが残
り、樹木や花も多く、四季折々に、風情あ
る表情を見せる。

紅葉は遅く、例年12月初頭が見頃。上野
の博物館あたりから歩き始めると、寛永
寺の銀杏の大樹や赤銅色に染まる桜並木
など、もみじで統一された京都の紅葉とは
また違った味わいの風景を楽しめる。初冬
といえど、まだそう寒くはなく、谷中霊園
内の公園では、谷中の住人たちが日向ぼつこ
をしながら世間話に興じている。年を取っ
たら、このような近所コミュニケーション
のある古い町に住むのもいい。

年が明けたら七福神めぐりもお勧め。
一説には、徳川家康が七福神を信仰したこ

とによって次第に庶民の間に広まったと言

われ、谷中が江戸の七福神コースの元祖と
される。スタートは弁才天が祀られる①上
野不忍池弁天堂。もともと上野の山は、
京都の比叡山に見立てられ、そこに寛永寺
が建てられた。不忍池は琵琶湖。弁天堂は
竹生島。つまりここは江戸の町の要なのだ。

次の寺は、大黒天の②護国院。江戸時
代のお堂が残る、風格ある寺だ。こちらの
大黒天は、若々しい青年のような姿で、通

年、お堂に上がってお参りできるのも魅力
である。谷中霊園に入り、枯葉を踏みな
がら歩いて行くと、毘沙門天の③天王寺
がある。現在は、寺らしからぬモダンな門
が印象深いが、かつては谷中を代表する大
きな寺で、宝くじのルーツである「富籤」
を求める人で賑わったとか。

寿老人の④長安寺は、趣きある店が並

ぶ谷中の町なかにある。続いて猫たちが群

れる「夕焼けだんだん」を下り、谷中銀座
の手前を右に折れて西日暮里方面に向か
うと、布袋さんの⑤修性院と恵比寿さん
の⑥青雲寺がある。どちらも江戸時代に
は「花見寺」と呼ばれ、行楽地として人気
があった。福祿寿の⑦東覚寺は、もう田端
駅に近い。自分の体の悪い部分に赤い札を
貼り付けてお参りする二体の金剛力士像
に、江戸の庶民信仰のパワーを感じる。



七福神とは

福德や長寿などを授けてくれる7人の神様で、ルーツは、
インドの神様、中国の実在の僧侶など幅広い。それらを
祀った寺や神社をめぐるコースが日本中にあり、1月上
旬には、ご開帳や色紙へのご朱印授与なども行われる。
江戸における元祖とされる谷中七福神は、珍しく七ヶ所
すべてが寺で、受け入れ期間は、元旦から1月15日まで。

期間中には、このような色
紙を求め、各寺でご朱印を
押していただくこともできる。



右／護国院のお堂は、東京
では貴重な江戸時代の建造
物である。大黒天のほかにも
仏像が多い。
左／修性院の布袋尊の像。
七福神めぐり期間中のみの
開帳で、たいへん見ごたえの
ある仏像だ。



高さ23.25メートルの主ドームとそれを囲む半ドーム。細密な手描き文様を周囲のステンドグラスが照らす。

東京の街角でオスマン・トルコへの旅 めくるめく装飾美術の宝庫



オスマン・トルコ様式の外観。高さ41.5メートルのミナレットからは礼拝時刻が告知される。

東京
再発見

イスラームの信仰と芸術の空間

『東京ジャーミイ・トルコ文化センター』

取材文・村上佳義 撮影・大垣善昭

エキゾチックな佇まいが印象的なイスラームのモスク。その外観を目にしたことはあっても、実際に足を踏み入れたことのある人は少ないのでは……。東京代々木に、私たちを歓迎してくれるトルコ伝統美術に彩られた”ジャーミイ”がある。

トルコ人イスラームの 悲願の建造物

イスラーム（イスラム教）の礼拝場モスクは、トルコでは特に「ジャーミイ」と呼ばれる。もとはアラビア語で「人の集まる場所」「大学」などの意味だそう。東京ジャーミイは、2000年に完成した比較的新しい建物。しかし、その歴史は長く、1917年のロシア革命に端を発する。

「革命のとき、ロシアに住んでいた多くのトルコ人がカザン州から満州を経て、日本に避難してきました。ムスリム（イスラームを信じる人たち）である彼らは、東京に定住し、礼拝場を必要としたのです」と説明してくれ



ジャーミイ内部。無限の宇宙を表現している装飾の総合美が圧巻。

るのは、東京ジャーミイ・トルコ文化センターの代表にしてイマーム（導師）の、エンサーリー・イェントルコ氏。初代の礼拝場は1938年に建てられたが1986年には老朽化で取り壊され、2000年、念願かなって同じ場所に、トルコ全土から集められた浄財によつて再建されたのだ。

井の頭通り、渋谷区大山町あたりに近付くと、かなり遠くからでも空に突き出たミナレット（尖塔）が目に入ってくる。そして正面に達すると、オスマン・トルコ様式のみことなドーム型建築物であることがわかる。

「このジャーミイは、すべてトルコの伝統芸術によつて造られています。大理石の彫刻や木材の調度品、カリグラフィ（装飾文字）、ステンドグラス、ドアの鍵にいたるまで、専門家による伝統のデザインです」（同氏）

そして、驚くべきことに、水とセメントと鉄筋以外のすべてが本国から送られ、建築や装飾芸術に関わる100人近い職人が来日、1年をかけて建造に関わったという。21世紀のジャーミイをこの日本で、まさにトルコ芸術の総力を挙げて創造したのがこの東京ジャーミイなのだ。

信仰心が磨き上げた 装飾美に目を見張る

祈りの場であるジャーミイに一歩足を踏み入れたとたん、開放感あふれる空間と色彩



1階の文化センターに設けられた、伝統的家庭の応接間。暖炉の装飾はイズミックタイル。

が乱舞するステンドグラスに圧倒される。見上げれば、大きな主ドームとそれを囲む6つの半ドームが、訪れる人を抱くように広がっている。主ドームは天蓋を表現し、半ドームや内壁と合わさつて宇宙を表現している。そして、装飾すべてが哲学的な背景をもっているという。

イスラームは、唯一絶対の神、アッラーを信仰する。最後の預言者のムハンマド（マホメット）を通じて、神が人々に与えたクルアーン（コーラン）の教えに従う二神教。特徴的なのは、個人生活のみならず社会生活のすべてを律する厳格さといえる。偶像崇拜を禁じているので、ジャーミイに入っても神様の姿はない。主な装飾は、植物などをモチーフにした幾何学模様であり、クルアーンの一節を芸術的にアレンジしたカリグラフィだ。写実を排し、無限のパターン“を特徴とするこれらのアラベスク文様は、アッラーの創造をありのままに象徴

アトム視点

その①「巨大なアオリ止め」

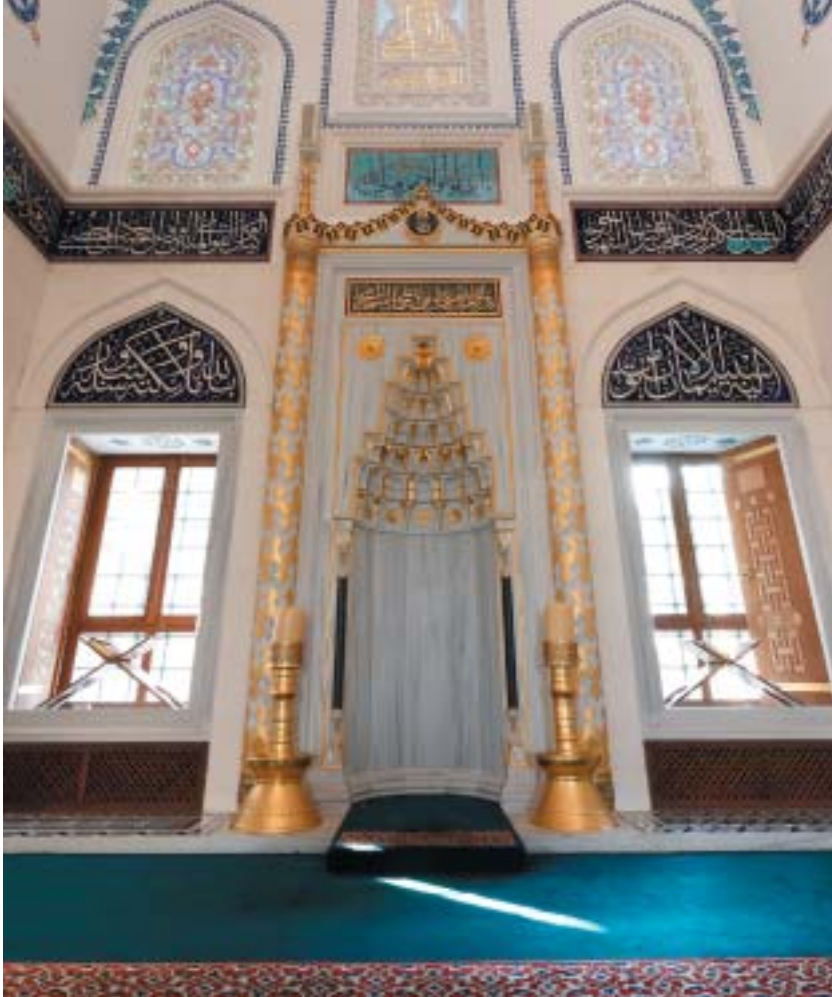
ジャーミイの扉には外鍵が見当たりません。そのかわり内側から掛けるこのアオリ止めは、大きく厚重な木の扉にふさわしく巨大なもので、内鍵をも担っています。説明によると、ジャーミイ独特の金具で、トルコで特別に製作されたものだそうです。日本でいえば神社仏閣に使うような特殊なものなのでしょう。



その②「ノッカー」

入口の大きな扉に付けられたノッカーです。扉とのバランスをはかり、かなり大きなもの。日本でもライオンの顔や、馬蹄などのデザインのノッカーを見ることがありますが、このようなデザインはイスラームの装飾として独特のもので、植物をモチーフにデザインしているようです。具象を排し、左右対称を尊ぶイスラーム芸術がこんなところにも見られて、大変興味深いです。





正面にあるミフラーブはマッカ（メッカ）の方向を示し、こちらに向かってお祈りをする。
白大理石と金箔の装飾が美しい。礼拝は1日5回。



壁のカリグラフィはクルアーンの一節。
「知識のある者こそもっとも尊い地位にある」



菊の花をデザインしためずらしい装飾は、
日本に息づくジャーミイならではの。

していると思われる。
よくよく観察してみると、ジャーミイの壁を取り巻くブルーのイズミックタイルにも、ドームの周囲にも、描かれているのはクルアーンのカリグラフィ。幻想的な光を放つステンドグラスは抽象的文様を巧みに組み合わせ、木の扉や寄木細工の調度品には象嵌によって左右対称の装飾を配している。絢爛でありながら、信仰の場としての荘厳さを醸し出しているのは、知恵と洗練が磨き上げた芸術表現にほかならない。

**先端技術が生んだ
未来につづく祈りの場**
イスラーム建築におけるジャーミイとは、人間とあらゆる自然の美しさを統合する聖なる空間とされている。東京ジャーミイは躯体工事に先端の技術を採用、RC構造で耐震性を高め、内部には大きな柱がないため開放感のある空間が確保されている。それによってドームが天井いっばいに広がり、圧倒的な魅力を放っている。ムカルナス（石膏の装飾）や、

大理石やライムストーンの外装の美しさであり、また、まさに東京にしか存在しないトルコイスラーム芸術を未来に引き継ぐ存在といえる。「1階には文化センターもあり、このようなスタイルは世界的にもめずらしいものです。イスラームの文化・芸術を多くの日本人に伝えていきたいですね」（同氏）
神を尊び、家族や友人を愛し、平和を重んじるイスラームの心を、東京ジャーミイを通して理解できそうだ。

Information インフォメーション

東京ジャーミイ・トルコ文化センター

住所／東京都渋谷区大山町1-19 電話／03-5790-0760

開館時間／事務所 10:00～18:00

※礼拝場はファジュルの礼拝（早朝）、10:30～夜の礼拝終了まで開館

交通／東京メトロ千代田線・小田急線 代々木上原駅より徒歩4分

ホームページ／<http://www.tokyocamii.org>

見学の注意／礼拝場は尊重すべき大切な場所ですから、注意事項を守ってください。

- 靴を脱いで入ってください。
- 女性は髪の毛をスカーフで覆ってください。
- 礼拝場内では静かにし、礼拝中は歩き回らないでください。
- 写真撮影には事前許可が必要です。
- 5人以上で訪れる場合は事前に連絡をしてください。

文化センターでは「イスラーム講座」や「写真展」「お祭りのイベント」などが不定期に開催されています。興味のある方はHPなどでチェックしてみてください。



黒と白の大理石のアーチを頂く、
ジャーミイの木製の扉。
左右対称の象嵌が映える。



ミンバル。
イマームが壇上からクルアーンや
イスラームの教えを説く。

アトムリビンテック「2008秋の内覧会」

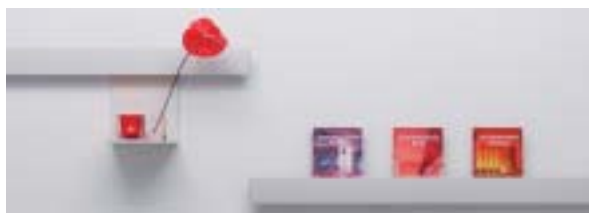
ご来場ありがとうございました

去る10月、東京・大阪で開催いたしました「2008秋の内覧会」には、お忙しいなか大変多くの方々のご来場を賜りまして、誠にありがとうございました。新製品をはじめとするATOM製品をご覧いただくとともに、たくさんの貴重なご意見ご指導をいただく良い機会となりました。これからもより一層、住まいづくりのお役に立てますよう努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。皆さまの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



2008-2009 グッドデザイン賞受賞 CASARL WALLSTYLE

10月8日、カサル・ウォールスタイルが2008年グッドデザイン賞（日本産業デザイン振興会運営）を受賞しました。



収納とディスプレイをカップリングさせた壁面収納です。アルミ製メインレールに、フック・トレイ・ケースなど、自在にコーディネートできる専用パーツを組み合わせることにより、さまざまな用途への対応が可能です。コレクションをお洒落にディスプレイしたり、キッチンをスタイリッシュにしたりと、ユーザーの個性に合わせて、住空間をシンプルに美しく演出します。



●東京会場



●大阪会場

アトムリビンテック「2008秋の内覧会」レポート

去る10月、アトムリビンテック「2008秋の内覧会」が東京と大阪で開催された。同社にとって初の試みとなる内覧会。今回は東京展の模様をレポートする。

年一回のペースで23年間にわたり開催されてきたアトムリビンテックの展示会。今年から「秋の内覧会」・「春の新作発表会」と年二回のスタイルをとることとなり、その第二弾が東京と大阪で開催された。

今回展示されていた主な新製品は、ソフトクローズ引き出しレールやソフトクローズ機構付き上吊引戸、ガラスショーケース用金具など。消音を意識して開発された引き出しレールや引戸は、「より静かで、安全、快適な住まい」といった、時代が求める住空間にふさわしい新製品となっていた。

同社では初めてというガラスショーケース用金具は、ヒンジの表面にアールを持たせたデザイン性が魅力的だ。また、機能性と美しさを融合させたカサルシリーズでは、通気孔や明かり採りなど、ドアまわりを充実させる新製品を取り揃え、ここにも同社の力量が遺憾なく発揮されていた。

さらに、提案品として紹介されていた360度発光LEDライトシステム「デルタレイズパワー」は、照明をコミュニケーションツールとして活用するという、LEDの新

しい可能性を示すものとして注目を集めていた。

昨今、インテリアを取り巻く多くの業界からは、消音・動作性やバリアフリーを考慮するなどの要望が高まる一方で、色や材質、サイズなど、ニーズは多岐にわたってきている。それらに対応するために、今回の内覧会では、さまざまな製品が展示されており、そのバラエティの豊かさ、ボリューム感は圧倒されるものがあつた。同社社員と顧客のあいだで交わされる活発なやり取りに耳を傾けると、早くも来春のことを見据えた会話が聞こえてきたことから、来年4月に計画されている「春の新作発表会」に向けて、すでにスタートが切られているという印象を覚えた。

今年から年二回の開催としたのは、いち早く時代に即した製品を提案し、市場の変化や情報をもダイレクトに製品開発に活かそうという同社の思いがあつたのだろう。市場ニーズにスピーディーに 대응しようと製品開発に力を注ぐ、アトムリビンテックの今後に期待したい。

4階の「ヒストリーコーナー」がリニューアル!!



CSタワー4階では、同社の「ヒストリーコーナー」がリニューアルされていた。なかでも興味深かったのは、50年前の東京下町の商家のモデルとして再現されたアトムリビンテック(旧・高橋金物)旧社屋の1/30模型。これは現社長・高橋良一氏の幼少期の記憶を辿りながら昭和30年当時の間取りを再現したものとのこと。個人的には非常に懐かしさを覚え、楽しませてもらった。住まいのタイムトリップを味わうことができる必見コーナーだ。

アトムの方針を明確に伝える
内覧会へ……

その第一歩が踏み出された

「2008秋の内覧会」の企画・運営
を担当された卸売事業部の
辻 勇司さんにお話を伺いました。

室内の「消音」「バリアフリー」といっ
た要望が、インテリア関連では求められ
ています。また、以前にも増してお客様の
要望は多岐にわたる傾向がみられます。

いまや十人十色のご希望があり、細
やかな対応が必要とされている時代で
すが、そのなかで機能やデザインに当
社なりのアイデアを盛り込んだ製品を
ご提案させていただきました。それらの
特性をじっくりとお伝えし、またお客
様の細かいご要望をお聞きできるよう
にしたいと思い、中身の濃い内覧会を
目指しました。

今回の新製品では、例えば引き出し
レールに金属製のベアリングではなく
樹脂ローラーを採用し、いっそう静かな
動きを実現したり、上吊引戸ソフトクロー
ズ機構では気温の変化に影響されな
いオイルダンパーの粘度を研究したり、
個々に細かな改良を加えることによっ
て製品特性を高めたものも少なく
ありません。

秋の内覧会でいただいた貴重なご
意見を活かし、来年春の新作発表会へ
とバトンを繋いでいきたいと思いを。

お忙しいなか内覧会にご来場くだ
さいました皆さまには心より御礼申し
上げます。ありがとうございました。



卸売事業部 次長 辻 勇司

新製品ラインナップ

住まいづくりのニーズに応える新製品をご紹介します。



上吊引戸ソフトクローズ機構 (FC-220-RK)、傾斜式タイプ

上吊引戸ソフトクローズ機構は、建具の閉まる音を静かにしたい、そんなニーズにお応えする製品です。引き込み装置にオイルダンパーを内蔵することで、戸が閉まりきる時に静かにゆっくりと閉じるのが特長です。傾斜式タイプは、ソフトクローズ機構に加え、レールの傾斜を利用して自動的に戸が閉まるタイプです。



CASARLシリーズ

スクエアなデザインを基本とするカサルシリーズの新製品です。ドアまわりの製品アイテムをさらに充実させました。通気孔、明かり採り、床付け戸当たり、扉付け戸当たりなどを新たにラインナップ。



ソフトクローズ引き出しレール

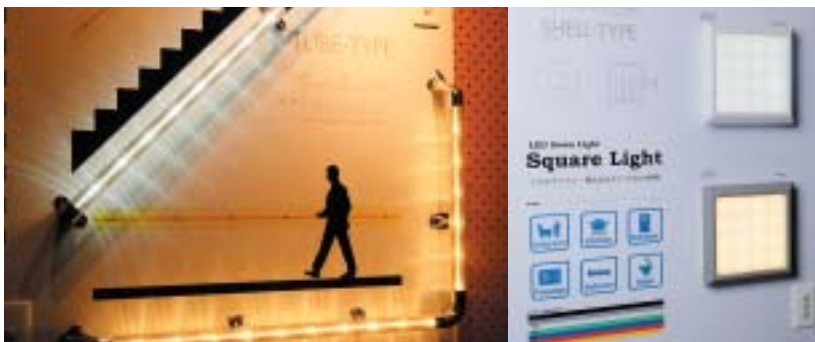
引き出しレールに引き込み装置を採用。引き込み装置はオイルダンパーを内蔵し、閉まりきる時に静かにゆっくりと納まるのが特長です。また、引き出した時のデザイン性を意識したスマートな形状のレールです。レールの厚みを薄くし、引き出しの幅を広くとれるようになっています。



ガラスショーケース用金具

アトムとしてはじめてのショーケース用の金具シリーズです。フラットな製品が多いなか、ヒンジの表面に緩やかなアールを付け、今までにないデザイン性を盛り込んでいます。アトムがこれまで培ってきた取手やツマミなどの製造技術を活かした美しい仕上がりです。

提案商品



Delta Rays Power

超・省エネ光源、LEDを採用した画期的なライトシステム、デルタレイズパワー。360度の発光を可能にしたことで、照明性とデザイン性のある製品が誕生しました。ハンガーや手すりなどさまざまな住環境のLED照明として新しい使

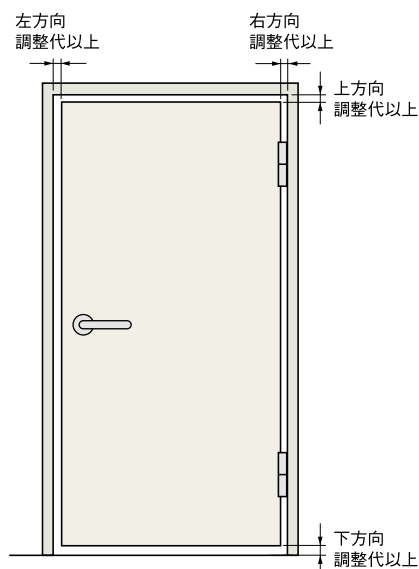
用方法が考えられます。99%リサイクル可能、ヒートシンクによって熱を分散する特殊構造です。インテリア関連商品として、アトムリビンテックから新しい提案品です。

Q₁

調整丁番を使用するときの設計上の注意点を教えてください。

A₁

建具を設計する際に、ドアと枠に「調整代」分の隙間を予め見込んでください。この隙間寸法の設定が少ないと、調整機能が十分に発揮できません。調整丁番の調整範囲は上下各2.5mm、左右各2.5mmですので、これが「調整代」分の隙間寸法となります。



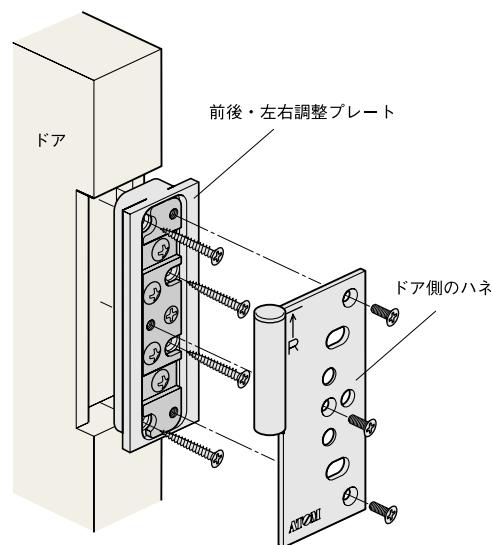
調整丁番を使用の場合のドアと枠との隙間寸法

Q₂

枠が薄く、枠側には左右調整プレートを埋め込めないときには？

A₂

通常の調整機能付き丁番は、枠側に左右調整のためのプレートを彫り込んで取り付けます。しかし最近ではご質問のように、枠が薄い場合左右調整プレートを埋め込んでも十分な木ねじ取り付け強度が得られないケースも出てきています。弊社では、このようなケースにも対応できるよう、ドアの木口面に左右調整プレートを掘り込んで取り付けるタイプとして「3方向調整丁番」を用意しています。





第16回地球環境映像祭 審査委員特別賞作品

「海のゆりかご—ハチの干潟を守りたい」



小学生のときに「ナメカジウオ」を見て感動し、もっとめずらしい生き物を知りたい!と思い続けた岡田君。20歳になり、「ハチの干潟調査隊」の代表として、あるときはイルカのように素潜りで海中の生き物を撮影し、あるときはハチの干潟の観察会を行い、ニュースレターも発行する。岡田君がこよなく愛するハチの干潟は、広島県竹原市沖にある18ヘクタールの小さな干潟。1日に2回陸が顔を出す干潟と藻場は多くの生き物を育む「海のゆりかご」のような存在だ。そんな干潟が、今、日本各地で危機を迎えている。戦後次々に埋め立てられ日本全体で4割が失われたのだ。そしてハチの干潟にも危機が訪れた。地元漁協が干潟沖に人工の藻場造成を計画。それを知った岡田君は行動を決意し、ハチの干潟の重要性を市民にアピール。行政に陳情を行う。果たして造成計画は中止されるのか?「次世代にハチの干潟を、瀬戸内海の豊かな自然を残したい」と語る1人の若者の行動を通して自然環境の大切さが問われる。

アトム編集部

作品を観終えて…

なんといってもビュアな岡田君が素晴らしい。しかも、純粋に生き物が好きで、そこから始まった岡田君の「ハチの干潟調査隊」が、藻場造成計画を中止させるということに繋がるのがすごい。大げさな団体運動などではなく、普通の人が普通にやっているという感覚が、周りの人々を、そして知事をも動かすことになったのだろう。一人でも始められる。そして、20歳でも結果を出せる…岡田君の活動を、そして自然の宝庫である干潟の重要性をより多くの人々に、特にこれからの自然を守り、育てる子ども達に観てもらいたい。



上映後アース・ビジョン事務局の仲野さんと意見交換する
ATOM NEWSの編集スタッフ

「第16回地球環境映像祭」の審査委員特別賞を受賞したのは「海のゆりかご—ハチの干潟を守りたい」。ハチの干潟をこよなく愛している岡田和樹君(20歳)の地道で熱い活動にスポットを当てた作品は、生物の宝庫でもある干潟の重要性を観る者にやさしく語りかけてくる。審査委員たちの「岡田君の純粋な姿に感動した」という受賞理由がうなずけるピュアな岡田君が印象的な作品だが、自然環境に対する示唆も深い。

監督からのメッセージ



岩崎 博史氏



森田 和稔氏

この作品は、豊かな瀬戸内海の自然を次世代に引き継ぎたいという岡田君の強い意志を伝えたいという思いで制作しました。

取材中は、廃棄物業者から恫喝を受けたり漁協のインタビューは何度も断られ、OA直前にやっと取れたという状況でした。その後事態は好転。2007年4月26日、ハチの干潟での藻場造成事業計画を漁協側が取り下げたのです。岡田君の活動は、ハチの干潟を残すことに繋がりました。

この作品に関してのお問い合わせ:

アース・ビジョン事務局 TEL: 03-5802-0525

<http://www.earth-vision.jp>

イタリアレポート

イタリア・ソンドリオ映像祭 ＜自然公園のドキュメンタリー映像祭＞

アース・ビジョン 地球環境映像祭と同じく、国際環境映像祭のネットワークEcomove Internationalの一員である、ソンドリオ映像祭(10月6日～11日北イタリアのアルプスのふもとソンドリオ市にて開催)に参加しました。夜9時からの上映会場は、夕食を終え、歩いてやって来た地域の人々でいっぱい。また海外ゲストは、地域の学校にて出張授業。地域の人々が環境映像と環境に携わる人々と出会う「コミュニティのお祭り」にしようとの意志に貫かれた場でした。

アース・ビジョン事務局 宇津 留理子



上映が行われた仮設テント



この夜の上映には300人が参加



みなさまこんにちは。いつもアトムニュースをご覧くださいます。ありがとうございます。

年末年始に向けて宴席の増える時期となりました。私の場合、一番一生懸命だったときには週に2〜3回通っていたジムを夏の終わりに退会してしまつたので、自身の健康&ウェイト管理については現在とても心細い状態です。最近では消化機能まで衰えたのか、食べ過ぎるたびに胃もたれに悩まされています。寒さが一段と増すこれからの季節、風邪をひいたり、私のように食べ過ぎで体調を崩さないよう、どうか健やかにお過ごしください。

いわばモデルルームのようなフロアです

さて、今回は5階住空間イメージフロアのご紹介です。金物はそれ単体で見ても、住宅のどの部分に、どのように使用されるのかわかりにくい場合があります。CSタワー2〜4階の垂



アトム製品を
感性豊かな
住空間で再現
モダンリビング&未来型キッチン
5階住空間イメージフロア

吐夢金物館でご紹介する金物が家具や建具に使用され、インテリアにとけ込んだイメージをご覧いただくのがこちらのフロアです。5階では大きく分けてリビングルーム、キッチン、ベッドルームを再現しています。ご覧になったお客様は「今すぐにも住めそうですね」とおっしゃいます。

1ミリ単位で寸法指定できる システム収納のご提案です

はじめに間口6メートルもの壁二面を覆う、リビング収納をご覧ください。こちらはオンデマンド家具オーダーシステム「デマンドメーカー」をご採用いただいているDICC社製のシステム収納「アクロス」です。システム収納やオーダー家具は完成イメージをお客様と事前に共有しにくいのが難点でしたが、当フロアでは3Dのシミュレーション画像でご確認いただきながら、さらには家具の色や質感、そして取手やツマミ

off time

アトム社員がリレーでお届け
オフタイムの過ごし方 vol.6

前号に登場 札幌営業所 玉川 省吾

玉川よりバトンタッチ

前橋営業所 大竹 健

関東圏内の特需営業を担当し、既存商品にとらわれない
開発・提案などにも携わる。



ゴルフへ入門!! 目指せスコア80!

札幌営業所の玉川さんよりバトンを受けました前橋営業所の太竹です。
オフタイム・・・実は、昨年よりゴルフを始めました! 始めたキッカケは、周りにゴルフをする人が増えたこと、テレビのゴルフ放送が面白いと感じてきたからです。
肝心の腕前ですが、2年足らずなのでまだまだひよこです。10球打って思い通りのショットは、良くて4〜5球程度です。あとは、ダフったり曲がったりとまちまちです。ただ今は、上手な友人にアドバイスを貰いながら、上達に向けて、日々特訓中です。
そんな私が、先月ついに、ゴルフ場デビューしちゃいました! 18フルコースを体験しました。普段やっている河川敷ゴルフとは違い、高低差

が激しく距離感が掴めなかったり、L字状の設定で、先が全く見えなかったり、グリーン手前にはいかにも”入れてちょうだい”といわんばかりの池があったりと腕のない私には、ある意味、過酷な試練のようでした。
おかげで驚くべきスコア(1???)を叩き、ホント散々でした。(恥ずかしい・・・)
とは言っても、今はゴルフに夢中なので、平日には仕事帰りに練習したり、休日は河川敷ゴルフでハーフを楽しんでいます。
いつの日か・・・上手くなった自分を想像しつつ、これからもずっとゴルフを楽しんでいきたいなと思います。
夢を描くのは自由! 目指せスコア80!



まっすぐ飛びますように。

後輩の南雲社員(左)と。



斬新なデザインに 誰もが驚きます

など細部にいたるまでお打ち合わせが可能です。収納プランをご検討中のお客様は、弊社スタッフまでお気軽にお問い合わせください。
5階のもうひとつの目玉はキッチンです。オリジナルデザインの円筒形3ピースキッチンは、シンクユニットを軸にIHヒーターユニットが回転し、さらにIHユニットを軸に電動昇降式小物収納ユニットが回転するという大仕掛けが最大の特徴です。私自身もその奇抜なデザインに度肝を抜かれました。他にも和紙の質



CSタワー・1階
ガイダンスフロア総合案内係
新井 真紀子

感をそのまま活かした和モダンな扉材や、メタルモザイク「ドバイメタル」を敷き詰めたカウンタートップなど、斬新なアイデアを散りばめたキッチンは、「人と同じじゃつまらない」という感性をお持ちの個性的なお客様にきっと楽しんでいただけたと思います。新橋へお越しの際には是非お立ち寄りくださいませ。

新橋の歩みとともに—— 酒好きがこよなく愛する街角のオアシス



店の入口から奥までつづくカウンター。
スペースに合わせ絶妙にカーブしている。



上左／人気のカクテル、オールド・ファッション（手前）とマティーニ、各1500円。上右／バーテンダーの越智卓さんとオーナーの松下ベッティさん。下／船の紋章を彫った、英国船の船員の手作り品。トニーさんのコレクション。



左／在りし日の名バーテンダー、トニーさんこと松下安東仁（アントニー）氏。
右／店のロゴは、詩人ブランデンの手書きから採った。

Tony's Bar

1952年創業の老舗BAR

新 橋駅からさほど遠くない、共同ビルの地下にその伝説のバーはある。細長い店内に年季の入った、流れるように曲線を描くカウンターが一つだけ。奥にスツールはあるが、半分はスタンディング。創業者にして名物バーテンダー、松下安東仁（アントニー）が自分の愛称から名付けた「Tony's Bar」だ。うまいカクテルと実直な人柄で「新橋にトニーあり」と評された氏は、その技量と英国人の父から授かった端正な顔立ちで、多くの顧客から愛された存在だった。惜しくも7年半ほど前に亡くなったが、一緒に店を切り盛りしていた姉の松下ベッティさんが、オーナーとして今も老舗の伝統を守っている。創業は1952年4月18日。

「4 月に講和条約（サンフランシスコ平和条約）が成立しましてね、その頃洋酒が出回るようになって、それで弟がやりたいと言い出したんです」とベッティさん。

そのとき、トニーさんは19歳だったという。最初は、人形町に出店、6年後に新橋のすぐ駅前に移った。商社のサラリーマンや雑誌社の編集者などが大勢詰めかけた。当時は、横須賀線のホームが地上にあり、終電に乗り遅れそうになった客が「おお〜い」と車掌に声をかけると待ってくれたという、のどかな時代だった。そして、東京オリンピックのとき、駅前が広場として拡張されるのを機に現在の場所に移った。50年、新橋とともに歩んできたことになる。しかし、なぜ銀座ではなく新橋だったのだろうか。

「**当** 時、銀座はきれいに着飾った女性がいるような店が多くてね、うちは弟がメインだったし、おいしいお酒をきっちり出したいという気持ちがありましたから、新橋がよかったんです」

その甲斐あって、酒を愛する文化人や著名人の顧客にも恵まれている。トニーさんが大事にしていたという一篇の手書きの詩が店内に貼られている。東京大学で教鞭をとっていたこともある、英国の詩人、エドモンド・ブランデンがこの店に捧げたものだ。店に行ったらぜひ探してみしてほしい。トニーさんが横浜に寄港した英国船から買ったという工芸品も飾られ、店内はどこことなく英国の雰囲気 が漂う。ちなみに、入口ドアには丸い船窓が取り付けられ、壁面にはヨットの甲板用の板が張り巡らされて、なんとも落ち着く雰囲気をかもし出している。引退して、新橋を離れてもふらりと訪れてくれるお客さんが多いというのもうなずける。

「**息** 子さんと一緒にきてくれたり、部下を連れてきてくれたり、古い方も、新しい方も、うちはいいお客さんばかりで幸せです。親子代々のお客さんだと、二代目、三代目、そう四代目もひと組いらっしゃるわ」とベッティさんはうれしそうに話す。

オ ーセンティックなバーで、うまいウィスキーやカクテルをじっくり味わいたい方は、ぜひ Tony's Barにお出かけください。2000本以上並んだボトルのなかにクラシックなラベルを発見し、飴色に磨きこまれた壁を見ているだけでも、至福の時間がすごせるというもの。

Tony's Bar（トニーズ・バー） 東京都港区新橋1-4-3 芝ビルB1 TEL:03-3571-0990

営業時間:18:00〜23:30 定休日:土曜・日曜・祝日 ※夏期・年末年始など不定休あり

交通:JR新橋駅銀座口から徒歩5分

予算:チャージ 500円（おせんべいなどが付く）、ウィスキー 900円〜、カクテル 1200〜1500円程度

※特におつまみはなし、チーズ程度 注意:女性のみ入店不可、男性と一緒にどうぞ

これであなたも新橋ツウ!?

アトムのShimbashiナビ

「ATOM NEWS」で紹介したスポットがどんどん増えていくマップ。



アトムCSタワー 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

営業時間/10:00~18:00 休館日/土曜日・日曜日・祝祭日

※161号で紹介した「H.K.SOUNDS」は、10月よりショップ名を「テーゲースタジオ」に変更し、CSタワー地下1階に移転しました。

読者の声

みなさまよりお寄せいただいたご意見をいくつかご紹介いたします。

◎東京都庭園美術館を見学した後でこのATOM NEWSを手に取りました。ATOMさんを通した視点ではこういうふうに見えるのだと思います。とてもおもしろかったです。 兵庫県 テン様 女性

◎金物FAQのような質問事例の他に各金物の歴史・時代の流れの様なものも興味があります。 大阪府 M.M様 男性

◎取り扱ってられる商品について特に新商品をもっと教えてください。 山口県 A.K様 男性

◎吉田さらさんの記事、設計にこだわっている頭に新しい風を入れていただきました。 奈良県 A.S様 男性

今後の参考とさせていただきます。ありがとうございました。

編集後記

◎今年も残すところあと僅かになりました。思い起こせば今年もいろいろなことがありましたね。皆さんにとっての今年の重大ニュースは一体何でしょうか？ 私にとっての一番のニュースはですね・・・小さい頃からのファンである埼玉西武ライオンズが宿敵読売ジャイアンツを4勝3敗で倒し、見事日本一になったことですね(嬉)。しかし！稀にみる大混戦のJリーグの結果次第では、この162号が発刊される頃にはまた変わっているかもしれません(笑)。年末年始は駅伝や格闘技、高校サッカーなどスポーツイベントが盛り沢山ですね。個人的には元旦はサッカー天皇杯決勝が行われる国立競技場で過ごしたいと思っています。もちろん、虫眞のチームが勝ち残っていればの話ですが・・・(笑)。今年一年、アトムリビンテック株式会社をご愛玩賜りまして、誠にありがとうございました。2009年も引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。良いお年をお迎えください。 《赤き血のイレブン》

個人情報の取り扱いについて

アンケートや洋書プレゼントにご応募いただいたみなさまの個人情報は、洋書プレゼントおよび「ATOM NEWS」の発送にのみ使用いたします。ご本人の承諾のない限り、第三者に提供することはありません。また、ご応募の集計結果は個人を識別できない形で管理の上、「ATOM NEWS」の企画・編集・制作の参考にさせていただきます。

※写真はDIC(株)で採用されたオンデマンドシステム収納「ACROS」です。(アトムCSタワー5階で展示中)

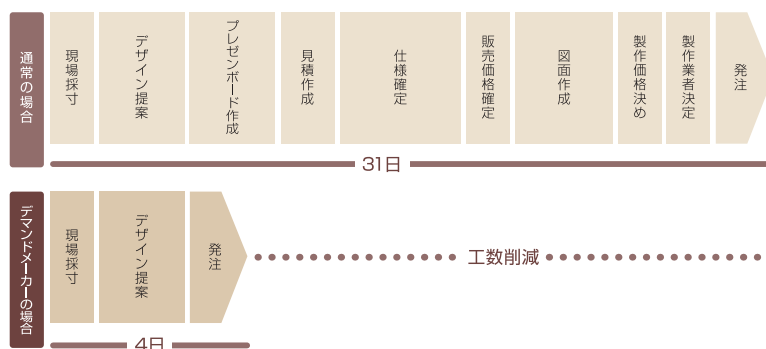
あなたに近い、オーダー収納。

リサイズは自由
バリエーション豊富
納品まで2週間



ユーザーの希望に沿った収納家具をコンピュータの画面上でシミュレーションし、オンラインで注文できる新しいオーダーメイドスタイル。それが「デマンドメーカー」です。あらゆる居住空間にも、多様化するライフスタイルにも対応できるのが最大の魅力。あなたの着想が、あなたオリジナルの収納になります。

発注までの工数削減 特注収納でありながら、発注までの工数を大幅に削減することが可能です。(概算日数)



www.atomlt.com/demand/
お問い合わせ: demand@atomlt.com



アトムリビンテック株式会社

■本社／〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600(代表)

特 販 事 業 部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833

卸 売 事 業 部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435

■アトムCSタワー／〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5

オンデマンド事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-4699

亜 吐 夢 金 物 館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

■ATOM住まいの金物ギャラリー大阪事業所／〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282

■札幌営業所／〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015

■前橋営業所／〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661

■広島営業所／〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880

アトムリビンテックのホームページもご覧ください。 <http://www.atomlt.com/>